

令和2年8月3日

西予市放課後子ども総合プラン運営委員 様

生涯学習課長 竹内 克之

会 議 要 録

名 称	令和2年度第1回西予市放課後子ども総合プラン運営委員会	
開 催 日 時	令和2年7月29日(水) 13:30~15:30	
開 催 場 所	西予市教育保健センター2階集団指導室	
出席者	委 員	会長：河野直樹、副会長：大塚晶司、委員：滝澤治、萩森英俊、浦部勝二、山下由紀江、福岡順子、三好仁美、白武和嘉子、樋口志保、松本由美子、山田里香、宇都宮伸郎、木綱恵美、前田寛明（代理）、古森波子、藤原由美、奥山孝司（代理）、宮本純夫 計19名
	その他	教育部長：宇都宮裕、松田禎子、垣内俊樹、滝澤洋、竹内克之、井関修三、宇都宮博、山下元紀、池田瑞恵、中村奈央子、徳永洋亮、兵頭祥平、二宮裕一、赤松和也、菊池由真
	事務局	生涯学習課 中山佑司 計16名
議事内容(要旨)	<p>1 開会</p> <p>2 教育部長挨拶</p> <p>3 会長、副会長の選任について 運営委員会設置要綱第3条に基づき、樋口志保委員の推薦にて会長に河野直樹氏、会長指名にて副会長に大塚晶司氏が選任される。</p> <p>4 協議事項 (1) 新・放課後子ども総合プランについて 事務局説明 河野会長…行動計画に一部の放課後児童クラブに待機児童が発生しているとあるが、何人の待機児童が発生しているのか。</p>	

子育て支援課…今年度当初は三瓶地区で3名の待機児童が発生していた。しかし、現在は解消している。

滝澤委員…明浜のおれんじクラブについて、以前は明浜中学校の余裕教室を活用していたが、災害後の復旧状況を教えてほしい。

子育て支援課…教室は復旧工事を完了したが、裏市道の山の復旧工事が完了しておらず、保護者が送迎に使用するのに通行できないため、公民館横の集落複合施設でおれんじクラブを実施している。山の復旧工事については今年度中に完了予定。来年度以降中学校に移動してクラブ活動を実施する予定。

滝澤委員…行動計画では、おれんじクラブの余裕教室の活用が現在×となっているが、明浜中学校を活用で○となるか。

子育て支援課…そのようになる。

山下委員…利用している子どもたちからは明浜中学校でまた災害が起きたら怖いため今の施設が良いという声がある。今後、場所について保護者から相談があると思う。

河野会長…明浜の児童クラブの場所の選定は今後検討願いたい。

河野会長…放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型の取り組みが0箇所ということだが理由は。

生涯学習課…放課後児童クラブと放課後子ども教室が一体的に活動できる余裕教室が見つからない。福祉部局と教育委員会で話し合いができていない。

河野会長…市の事情があって進んでいない。今後の検討課

題である。

今の意見を元に内部協議し新・行動計画として決定することとする。

(2) 令和2年度放課後児童健全育成事業の実施状況について

子育て支援課説明

河野会長…前年度から懸案事項だった宇和地区の待機児童について、新たにてっぺん広場ができ、待機児童の解消ができた。下宇和地区の災害に伴う施設の移転について新たな施設が整備され来年度には入所できるとのこと。ななほし中川については、中川小学校の教室で受け入れ、来年度以降新しい施設の整備を検討している。懸案事項がある程度解決している。新型コロナウイルスの対応についても報告があった。警報等で学校が休校になった場合でも、学童クラブでの保護者や指導者への連絡調整が大変かと思うが、子どもたちのために努力いただきたい。

樋口委員…一旦コロナが落ち着き学校も始まったが、今後コロナが再拡大した場合の対応策を各クラブから説明してほしい。

トトロクラブ松本委員…学校休業中は利用する子どもも少なかったが、現在は通常の数に戻っている。感染予防のために室内で密を避け過ごすことを多くしていたが、子どもたちのストレスもかかるということで、外で遊ばせ密になる遊びは控えた。また、夏場のマスク着用は熱中症の危険もあり、状況に応じてマスクを外して安全に過ごしたりしている。消毒・うがい手洗いにも気を付けている。密には気を付けているが、狭いスペースで不安は感じている。

なかよしクラブ木岡委員…通常通りの人数が通っている。施設へ来てからは手洗い、うがい、手指消毒、検温をしている。おやつなど食べる場合もあり、一定の方向を向いて間隔

を空けるなど気を付けている。園内を広く2、3箇所に分かれて遊ぶようにもしている。不安なことは夏休みに家族で色々な所へ出かける。職員も行動記録をつけて気を付けている。今後も不安は続く。

ななほし中川山田委員…2箇所に分かれて保育をしている。消毒や検温、職員も気を付けている。小学校では宿題が終わったらできるだけ校庭に出て遊ぶようにしている。ななほし中川はなかなか外で遊べないが、屋内外それぞれ分けて遊んでおり、密を避けるようにしている。夏休みに入っても家庭での検温記録を徹底してもらうよう保護者にお願いしている。職員の行動記録もつけている。

明下田クラブ宇都宮委員…学校から来たら消毒、入る前に検温。37度5分以上熱があれば保護者に連絡としている。

学習では机の間隔を空ける。弁当も間隔を空けて前を向いてあまりおしゃべりせずに食事をするようにしている。室内活動は基本マスクをしている。習慣になっていて外す子もほとんどいない。夏休みに入って遠出されることに対して制限もできない。外出の把握を検討したい。

のむらキッズ・しろかわキッズ古森委員…利用状況は元に戻った。しろかわキッズは22～23名、のむらキッズは40数名の利用がある。学校から帰ってきたらまず手洗いうがいはもちろんのこと一人ひとり検温をしている。一度測って熱が高い子どもは再度測るようにして様子を見て下がらなければ保護者に連絡するようにしている。学習も対面から一方向に向くようにしている。マスクをせずに迎えに来る保護者が増えていて、子どもでもどうしてもマスクを外してしまう子があり、声掛けが必要。冷房をしているが1時間に1回は喚起をするなど注意を配っている。密にならないようにしているが、じゃれついてきたり、体を密着する遊びもするので、なるべく外遊びを取り入れて密にならない環境を作っている。先日のむらキッズの保護者から県外の親族の帰省があり子ど

もの行動記録の報告があったが、把握しきれないところがある。

すこやか児童クラブ藤原委員…3月4日から三瓶小学校の臨時休校に伴い、午前中から受け入れることとなり、職員の確保、体調を崩す者もおり、大変だった。40名の登録児童のうち通常は一日20～30名の児童が利用しており、構えていたが、3月4日は利用が6名しかいなかった。保護者となかなか連絡がとれず意思疎通が難しいところ、クラブが密になるからと小学校の受入を利用している人もいた。平均しても10名いかない利用者数だった。新年度に入ってから30名前後の利用に戻り、近くのコミセンを借りたりして運営。

事務効率化として保護者にコドモンアプリを入れてもらい、事前に利用者数が把握できるようにした。定着させていきたい。

おれんじクラブ代理前田氏…31人予定のところ15人の登録児童、7～8人の利用となっている。密にはなっていない。検温等全て行っている。気になるのは次亜塩素酸水やアルコール消毒の効果がどの程度か情報に振り回される。保護者との連絡網も確立させたい。

てっぺん広場…4月から開設。現在8名。職員は行動記録をつけ、県外には出ないよう依頼。37.5度以上は連絡。10人以上の集まりについては事前に報告。児童、保護者については連絡を密にする。休日でも家庭で熱を測ってもらっている。介護施設もあり看護師が常時いるので、熱があった場合は対応している。職員2名体制で宿題は分かれてさせている。おやつは使い捨てのもの。30分毎に3～4分の換気をしている。

樋口委員…家庭での過ごし方、旅行など情報収集も難しいが、危険な場所へ行ったら報告してもらうことが必要。学校はどのようにしているか。

滝澤委員…基本的には各学校で検温をし、子どもたちの健康状態は把握しているが保護者については把握していない。学校に健康な状態で通っていることが基本。

樋口委員…子どもたちからどこそこへ行ったと話が出ることもある。また、企業が職員に対して県外へ行かないよう言っている。市内で出ていない状況で持ち込まないように皆が努力しているところ。

滝澤委員…長距離の運転手などもいる。親の職業などで心配させない。ただし、子どもの健康状態に焦点を当てている。

河野委員…学童クラブの中では子ども一人一人の健康状態を把握すること、密にならないような環境づくり、保護者との連携をどうしていくのか、職員の健康状態等の把握、本当にコロナ対策については、きめ細かく留意しながら運営をしていただきたい。学校では人権的な差別事象にならないよう取組も考えてほしい。

(3) 令和2年度学校・家庭・地域連携推進事業の実施状況について

事務局説明

萩森委員…地域コーディネーター10名とあるが、主にどのような方がされているのか。宇和中学校も令和3年度からコミュニティ・スクール実施ということで、今年度からメンバーの構成や下準備に入っている。特に学校では業務改善という視点、地域と学校とのパイプ役として中立な立場で重要な役割である。

事務局…地域とつながりがある方で、例えば田之筋放課後子ども教室の宮本さんは地域づくり組織の会長をされている。スタッフもたくさん集めていただいている。野村では元地域おこし協力隊。あとは公民館主事が担っている。

萩森委員…今まさに選出中ということになるのか。

河野会長…これからの課題である。地域コーディネーターが核となって地域と学校を結ぶので、人選が大切となる。

萩森委員…ぜひ小中学校のコミュニティ・スクールの中で組み込ませてご協力いただきたらと思う。

宮本委員…田之筋では、協働活動支援員が10名、協働活動サポーターが7名、計17名体制で行っている。年齢がだいたい70歳の高齢でコロナについては心配している。

河野会長…コーディネーター、支援員、サポーターの高齢化とそれに伴うコロナ対策、令和4年までにコミュニティ・スクールは整備されるわけで十分検討されたい。一番大切なのはコーディネーターを充て職で選ぶのではなく、学校や子どものために本当にやる気のある人。

樋口委員…西予市4事業している。宇和町小学校区に児童クラブは充実しているが、その他予定はないのか。

事務局…行政主導ではなく地域から声が上がったらしっかりと立ち上げまで支えていきたい。

河野会長…宇和町小学校区の学び舎事業もまだないので、今後どうしていくか考えていきたい。

(4)「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組について

事務局説明

萩森委員…コーディネーターの推薦、選出が一番のキーとなる。今までは学校関係者評価委員会があり、学校側が自己

評価したものを委員に見てもらおうような学校主導だった。今後は地域に委ねる。宇和中学校は宇和町全ての地域にまたがるので、人選では学校も参加させていただきたい。

河野会長…小学校はやりやすい。地域と学校が連動しているため。特に中学校においてはどこと相談してどう活動していけばいいかは範囲が広いので教育委員会との相談が必要。小学校と中学校の連携も考えなければならない。

竹内生涯学習課長…選出する人材が難しい。新しい制度に取り組むことはハードルが上がる。自分たちの勉強も含めて分かりやすい事例を学ぶ機会を持ちたい。先進的すぎる事例は、学校現場に負担がかかっている事例もあるので、落ち着いた事例を見ながら地域の方と交流ができたらと思う。

河野会長…これらの制度を学校の中で教職員に共通理解してほしい。また、地域の人が制度を理解した上でどのように学校をサポートしていくかの課題もある。それらが合わさってうまく機能するものである。地域への周知が必要。例えば団体連絡協議会の中でも時間をとって地域づくりと連動した形で説明していった地域理解がなければならない。単に今まであった組織を学校運営協議会に変えただけでは形だけになってしまう。将来的に子どもを育てるためにどのような人に関わってもらうか十分考えなければならない。中学校は中学校のニーズがある。このような人が入ってくれたら子どもたちの学業、放課後のクラブ活動に良いなど意見が出てくるかと。

(5) その他

樋口委員…資料1のプラン行動計画(9)について、市内の各クラブ間で情報共有できる場が必要だと思っている。それが明記されていて良いことだが、実際の計画はどうか。

子育て支援課…市内の放課後児童クラブ支援員対象の研修

	<p>は実現できていないが、昨年度担当者レベルでは集まって事例を共有している。</p> <p>樋口委員…（10）の周知方法について、市の広報誌に特集を組んだら分かりやすい。</p> <p>5 閉会</p>
備 考	